

メッセージアウトライン

ヤコブの手紙 5:14~18 「信仰による祈り」

[14-15]「あなたがたのうちに病気の人がありますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます」

祈りはクリスチアンの生き方の三原則のひとつ。→ I テサロニケ 5:16~18

その中でも特に私たちの祈りが、より切実さを増すものが病気の時の祈りである。そして、それが生死の境にあるような場合はさらに真剣に、切実に祈られるのである。

ここでは自分で自分のことを祈るとともに、「教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい」と勧められている。長老は神の教会を特に霊的な面で指導し、支え、管理していく責任を負っている者である。→テトス 1:6~9、I テモテ 3:1~7

ここではオリーブ油を塗ることが勧められているが、オリーブ油自体に病を治す魔法のような働きがあるわけではない。本当に病気を癒す力を持っているのは主なる神のみであり、この神に病気の回復を祈ることが大切なのである。オリーブ油を塗るということはそれが当時の一般的な方法であったからかもしれない。→良きサマリア人はけがをしていた人にオリーブ油を塗って介抱してやった。→ルカ 10:33~34

またイエスは地面につばきをして泥を作られ、それを盲人の目に塗って癒されたことがある。→ヨハネ 9:6~7 しかし、その場合でも彼の目をあけたのは泥の力ではなく主イエスの癒しの力、神の力であった。それゆえ大切なのは信仰による祈りなのである。

信仰による祈りは病む人を回復させる。重要なのは信仰をもって祈ることである。→ヘブル 11:1

教会の長老を招くということは本人の祈りに加えて、長老に心からの信仰によって祈ってもらうことであり、それは長老の重要な役割であった。

当時の人たちは病気の原因がその人の何らかの罪によるものだと思っていた。それゆえ長老たちの祈りによって神が病人の健康を回復してくださるなら、その病気の原因となったその人の罪も赦されたことになる。実際、その人の罪深い思いや行動がその人の健康を害するということがある。しかし、すべての病気がその人の罪のためであるという教えは聖書の中にはない。むしろ、病や弱さ、障害を通して神のみわざが現されるということもある。→ヨハネ 9:1~3

[16]「ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります」

ここは誰か罪過ちを犯してしまった相手のいる場合が想定されている。この場合、私たちは神にだけ赦しを願って、相手の人に知らん顔をしているということは正しいことではない。→マタイ 5:23~24 罪の告白は神と自分との関係を回復するとともに、自分と人との関係をもいやす。また自分が被害者の立場に

あったとしても積極的に相手を赦していくことも大切。イエス・キリストが私
たちを赦してくださったように私たちも赦すのである。これが神が私たちに望
んでおられることである。→マタイ 6:14~15

また「義人」とは罪のない人のことではなく、神によって罪を赦されて義とさ
れた者のことであり、神と人との前に罪の清算をして正しい関係を回復してい
る人のこと。そのような人の祈りは大きな働きをする。

[17-18]「エリヤは、私たちと同じような人でしたが、雨が降らないように熱心
に祈ると、三年六か月の間、地に雨が降りませんでした。そして、再び祈ると、
天は雨を降らせ、地はその実を实らせました」

ここでは旧約の預言者エリヤが例としてあげられている。→I列王記17章
以下参照。彼はイスラエルを偶像礼拝から真の神礼拝に立ち返らせるのに大き
な働きをした人物である。

彼の祈りによって三年六か月の間、雨は止められ、その後再び祈ると天は雨を
降らせた。ヤコブがここで強調したいことは、エリヤも実は「私たちと同じよ
うな人でした」という点である。彼は超人であったのではなく、私たちと同じ
神を信じる、弱さも欠点もある普通の人だったのである。しかし、この普通の
人が神との間に何の罪も障害物もなくして信仰を持って祈るならば、どれだけ
大きなことを成し遂げることができるかというのがエリヤの祈りの模範なので
ある。

今日の個所から教えられるように、私たちもさらに強く信仰を持って祈る者
とさせていただき、病のいやし、人間関係のいやしのために、また、さらに大
きな神のみこころをなすために用いられたいと願う。